



動物文様の 工芸と絵画の



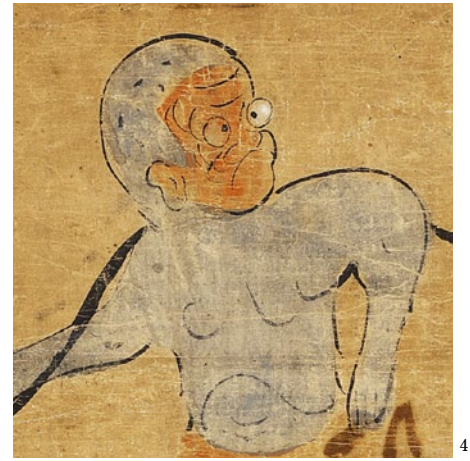
2015年 6月30日(火)
- 8月23日(日)

日本民藝館

<http://www.mingeikan.or.jp/>

[写真] 架鷹図(部分) 李嶽筆 朝鮮時代 16世紀 / 興福寺絵馬
唐獅子 江戸時代 1649年 / 色絵馬文深鉢 スペイン 17世紀





本展は、日本民藝館が所蔵する動物がモチーフの工芸と絵画を展示するものです。柳宗悦(1889-1961)が「民芸」(民衆の工芸の略)を旗印に創設した当館には、民衆が携わったあらゆる分野の工芸が所蔵されていますが、そこには大津絵や絵馬を始め、陶磁・染織・漆工などに、動物たちをモチーフとした造形が豊富に表されています。当館のコレクションは、柳の独特な視点で蒐められているために、一般的な絵画史や工芸史と比べれば、ある偏りが生じていることは否めませんが、造形史上において「民衆」の造形が軽視されがちな事実を加味するならば、造形史上での「民衆」の豊饒な動物表現を、如実に語るものといえましょう。

また本展には、室町時代の水墨画や、中国南宋の動物画の流れを汲む朝鮮半島や中国の精緻な動物画など、柳が深い興味を持って蒐めながらも、これまで紹介されることが極めて少なかった、画家たちによる動物画も出品されます。それらは柳の工芸観が、一般的に「民芸」という一面性で捉えられがちなのに対し、本来は広範な拡がりを持っていたことを示すものとして、大きな意味を持つものです。

動物の工芸や絵画が数多く作られてきたのは、人々がかつての生活や文化の中で、自然界で共生すべきものとして動物と密接に関わり合ってきたからだと考えられます。工芸と絵画に表された動物たちの豊かな世界を、ご高覧いただければ幸いです。



1. 柳鷲図(部分) 伝雪舟筆 室町時代 16世紀
 2. 白磁蛙型水滴 朝鮮時代 19世紀
 3. 呉須鉄絵初夢文石皿 瀬戸 江戸時代 19世紀
 4. 大津絵 提灯釣鐘(部分) 江戸時代 17世紀後半~18世紀前半
 5. 蛮絵(法隆寺伝来) 鎌倉時代 14世紀
 6. 大海蟹図 司馬江漢筆 江戸時代 1781年
 7. 華角箱(部分) 朝鮮時代 17世紀

記念講演会 模様とは何か—近代日本の図案と模様 [講師] 土田真紀(美術史家)
 2015年8月8日(土) 18:00-19:30 [料金] 300円(別途入館料が必要) [定員] 100名(要予約)

□開館時間 10:00-17:00(入館は16:30まで) □休館日 月曜日(ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館) □入館料 一般 1,100円 大高生 600円 中小生 200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸) 第2・第3水曜、第2・第3土曜日(7/8・7/11・7/15・7/18・8/8・8/12・8/15・8/19、入館は16:00まで) □所在地 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □電話番号 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<http://www.mingeikan.or.jp/> **日本民藝館**

次回展予告・生誕120年記念 芹沢銈介展 2015年9月1日(火)~11月23日(月祝)

